（仮称）小谷城戦国体験ミュージアム
基本計画

令和６年３月
長浜市

目　次

１．施設整備について
　１―１．施設整備の基本方針
　１－２．史跡小谷城の価値
　１－３．観光資源としての魅力の高まり

２．事業計画
　２－１．事業の全体構成

３．施設計画
　３－１．建設予定地
　３－２．施設構成

４．展示計画
　４－１．展示の基本方針
　４－２．展示空間の参考施設事例

５．管理運営計画
　５－１．管理運営の基本方針
　５－２．運営形態
　５－３．来館者数の見込み

６．事業推進計画
　６－１．整備スケジュール
　６－２．史跡整備との連携

１．施設整備について

１―１．施設整備の基本方針

小谷城跡から姉川古戦場に至る地域は、戦国大名浅井氏の盛衰から、羽柴秀吉による北近江統治に至るまで、日本の戦国時代に大きな影響を与えた史跡が集結している。また戦国時代、「近江を制する者は天下を制す」と言われたように、本市は、小谷城を攻め落とした織田信長、豊臣秀吉など、名だたる武将が戦いを繰り広げる舞台となってきた。

このような歴史的背景があることを踏まえて、「長浜市総合計画第３期基本計画」内、政策４の３「地域の魅力を受け継ぐまちづくり」にて重点的に取り組む視点として、「（仮称）小谷城戦国体験ミュージアム」の整備をあげている。また「長浜市歴史文化基本構想」では第５章「歴史文化資産の保存活用計画」の中で、「小谷城・姉川古戦場と浅井氏関連史跡」に関して市内外への普及啓発の充実や、続く第６章「保存活用を推進するための体制整備」の中でも「保存活用を推進するための施設の確保」として「（仮称）小谷城戦国体験ミュージアム」整備をあげている。

これらの方針を実現すべく、長浜ならではの貴重な歴史文化の価値と魅力をより効果的に発信していく場として、（仮称）小谷城戦国体験ミュージアムの整備に関する基本計画を策定する。

＜施設整備の目的＞

①歴史文化施設の再編（長浜市歴史文化基本構想）

将来的に、直営博物館施設を「歴史総合」「戦国」「観音」をテーマとする３館に再編。小谷城跡と浅井氏は長浜における戦国史の重要な柱である。

②歴史文化を活用した観光振興

小谷城跡と市内の戦国関連史跡（城跡や古戦場等）を連携させて、観光客を市内に巡回させる。

③施設の老朽化への対応

現行の小谷城戦国歴史資料館は、令和８年（2026）に耐用年限を迎えることから、新たな展示・案内施設が必要である。

＜コンセプト＞

市内外の多くの人が訪れ、交流する
「ここでしか体感できないホンモノの歴史を発見し、長浜ファンを増やす拠点施設」

（仮称）小谷城戦国体験ミュージアム（以下、「ミュージアム」）は、長浜の歴史を最も特徴づける「戦国時代」の魅力を発信するとともに、史跡として県下有数の規模を誇る小谷城へ誘導して、「ホンモノ」を体感してもらうための施設を目指し整備を進める。

ミュージアムでは、「学び」「体験・発見」「つなぐ」「保存・活用・継承」の４つを柱とし、新時代の資料館として最小限のコスト・機能で最大限の効果を発揮できるよう、その役割を果たしていく。

＜基本方針＞

（１）本市の多様な歴史文化の本質や価値、魅力を発信する空間

長浜市の代表的な歴史遺産である小谷城跡の高いポテンシャルを活かし、ミュージアムと実際の小谷城跡でホンモノを体感できる施設を目指す。また、小谷城や浅井三代の歴史のストーリー化や映像技術の活用など、実物資料のみに頼らない展示手法を検討する。

（２）市内の歴史・観光周遊の拠点となる空間

市内の周辺史跡や観光スポット、道の駅等をつなぎ、面的なガイダンス施設の役割を目指す。

（３）地域学習へつながる施設

様々な関係者との協働体制構築を目指したネットワークを重視する。また、これまで地域で積み重ねられてきた知見を活かす住民参加型の事業運営を検討する。

（４）景観に配慮した施設

平屋建てを基本とした小谷城跡と調和した施設とする。

１－２．史跡小谷城の価値

小谷城跡は、標高 495mの小谷山の山頂から中腹、麓の清水谷に所在する。大永５年（1525）頃に浅井亮政によって築城され、天正元年（1573）に織田信長軍によって落城した城郭で、北近江（長浜・米原市域にほぼ相当）を統治した戦国大名である浅井氏三代 50 年の居城として知られる。

小谷城跡の保存活動については、大正 13 年（1924）に「小谷城址保勝会」が設立され、昭和４年（1929）には本丸に「小谷城址碑」を建立、昭和 12 年（1937）には国史跡に指定されるなど、近代に入って約１世紀の歴史をもつ。さらに、平成７年（1995）には清水谷地区が国史跡に追加指定され、平成 26 年（2014）には長浜市によって「史跡小谷城跡保存管理計画」、令和２年（2020）には「史跡小谷城跡整備基本計画」が策定されるなど、現在に至るまで史跡保存活動が続けられている。

城郭としての価値は、以下のとおりである。

①小谷山にある大嶽から連なる２つの尾根に所在する曲輪群は、史跡指定されている部分だけでも 1,477,388 ㎡にもなり、史跡としての広さは県下有数の規模を誇る。

②山上東尾根の本丸・大広間など主要部分、山上の大嶽、西尾根の福寿丸・山崎丸、搦め手の月所丸など、時代や規模が多彩な城郭構造が良好に残存している。

③浅井長政の正室・お市や、その娘たち（浅井三姉妹）の居城である小谷城は、天険の要害であった。織田信長や羽柴秀吉といった名だたる武将たちが攻め、落城に至るまでのストーリーと併せて城郭の歴史を語ることができる点においては、日本でもトップレベルの魅力を持つ城である。

④周囲には、信長が本陣をおいた虎御前山城や、浅井氏と信長の決戦の場である姉川古戦場が展開するほか、戦国時代における民衆側のストーリーともいえる観音文化も伝承されており、地域の戦国史を幅広く解説できる立地にある。

⑤小谷城址保勝会を中心に、周辺住民の力によって、大正時代以来約１世紀、保存・活用が行なわれている「市民の山城」である。

⑥様々な植物や動物が生息する豊かな自然の中、日帰りのトレッキングコースとして、自然愛好家からも人気のある山である。

１－３．観光資源としての魅力の高まり

小谷城跡は、公益財団法人日本城郭協会が平成 18 年（2006）に認定した「日本 100 名城」に選ばれ人気を博していたほか、ＮＨＫ大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」が放送された平成 23 年（2011）には、小谷山や城郭に６万人以上の観光客が訪れた。さらに、平成 29 年３月の「小谷城スマートインターチェンジ（ＳＩＣ）」開設で県外からのアクセスが良好となったことも後押しとなった。

小谷城戦国歴史資料館の過去 10 年（H24～R３）の年間入館者数平均は、約 15,800 人で、この規模の資料館としては別格の入館者数であり、歴史ファンや観光客からの根強い人気を裏付けている。

今後の展望としては、令和８年のＮＨＫ大河ドラマが、豊臣秀吉の弟秀長を主人公とする「豊臣兄弟！」であることが発表された。特に兄弟の立身出世を描く場面では、本市がメインの舞台となることが予想され、多くの歴史ファンが小谷城跡を訪れることが見込まれる。

観光資源として魅力が高まる好機に合わせて、ミュージアムの整備を大々的にＰＲするとともに、歴史ファンのみならず多くの観光客が浅井三代や小谷城の歴史等に親しめる施設づくりを目指す。

２．事業計画

２－１．事業の全体構成

（仮称）小谷城戦国体験ミュージアムは、長浜市の歴史・文化に親しむ中心的な役割を担うために、地域住民や関係諸機関と連携を図りながら、以下の諸事業を展開する。

（１）展示事業

小谷城や浅井氏の歴史を伝え、興味関心を引き出す。

・小谷城跡や周辺史跡、観光スポットを魅力的に紹介し、来館者を館外のフィールドへと誘うガイダンス的な展示を導入する。
・多様な来館者の様々なニーズに応える展示内容・展示手法を検討する。
・解説文等はインバウンド対応とする。

（２）教育普及事業

小谷城や浅井氏の歴史、長浜を身近に感じるきっかけづくりを行う。

・地元の語り部（観光ボランティアガイド等）による現地説明を行う。
・講演会、講座等の開催、生涯学習事業との連携を図る。

（３）交流・サービス事業

限られた施設・体制で事業を着実に実施するためのネットワークを構築する。

・展示および情報発信の内容更新等のための情報収集・連携を行う。
・市外から人を呼び込むための関係施設との連携を行う。
・賑わいを創出するための仕掛け（ミュージアムショップ、キッチンカー出店など）を作る。

（４）収集保存事業

これまで継承されてきた戦国時代に関する貴重な資料や今後の博物館活動で新たに収集される資料を、安全かつ確実に収蔵庫に確保する。

・先人の戦国時代に関する調査資料等の収集を行う。
・戦国時代に関する資料（古写真含む）の収集を行う。

（５）調査研究事業

小谷城跡だけでなく、城下町など周辺の自然・歴史・文化資産を活用した研究活動を推進するため、研究活動の場を設けるとともに、戦国時代を研究する施設として環境整備を進める。

・小谷城をはじめとした城跡に関する調査・研究を行う。

・浅井氏をはじめとした戦国時代に関する様々な調査・研究を行う。

３．施設計画

３－１．建設予定地

建設予定地は、小谷城跡を目前に臨む抜群のロケーションであることや、来館者や登山者の利便性、用地取得にかかる予算面などを考慮し、市が所有する「戦国ガイドステーション」の敷地とする。なお、既存の「戦国ガイドステーション」および「浅井三代の里」を付帯施設として有効活用し、敷地の一体的な利用を図る。

●敷地　　湖北町伊部757－1 現況地目：公園、登記地目：雑種地 1,000㎡
　　湖北町伊部757－3 現況地目・登記地目：公園 3,696㎡

●建物　　ミュージアム（新築部分）　約500.00㎡
　　戦国ガイドステーション　　126.00 ㎡
　　浅井三代の里　　114.92 ㎡

●駐車場　敷地内 約 40 台

●所管　　産業観光部文化観光課

３－２．施設構成

施設の構成は以下の通りである。

※施設構成に関わる内容は、仮のものであり、詳細については今後検討する。

機　能	概　要	想定規模
エントランスホール	総合受付・ロビー ※その他、共用部に規模含む	
観光案内機能	観光ガイドブース 情報発信スペース （観光情報の提供、イベント情報、特産品紹介）	
展示機能	映像展示室、常設展示室、企画展示室	
調査・研究機能	職員（学芸員・文化財技師等）の作業室、資料庫	
市民交流・サービス機能	ワーキングスペース、ショップ等	
管理機能	事務室（給湯）、倉庫	
その他、共用部	廊下、風除室、トイレ、機械室等 ※エントランスホール含む	

４．展示計画

４－１．展示の基本方針

ミュージアムが掲げる「学び」「保存・活用・継承」「体感・発見」「つなぐ」の４つの使命に基づき魅力的な博物館施設を目指す。

（１）ビジュアルで蘇る小谷城

迫力ある映像で小谷城にまつわる戦国ストーリーを分かりやすく伝え、実際の小谷城跡へと誘う。また、小谷城跡や虎御前山城等の戦国時代の史跡のジオラマを設置することで、小谷城を中心に長浜市内の観光地を繋ぐ導線とする。

（２）小谷城跡発掘遺物や浅井氏に関する本物の資料との出会い

小谷城跡からは小谷城下の人々が用いていた暖房器具（バンドコ）や器など様々な遺物が発掘されている。こうした遺物をケース展示することで戦国時代における小谷城の姿を学ぶことができる。また、多くの人を集客するには目玉となる展示や定期的な展示替えが必要である。小谷城址保勝会が所蔵する「浅井長政像」や、長浜城歴史博物館が所蔵する長政が落城直前に家臣に宛てた書状である「浅井長政書状 垣見助左衛門尉宛」といった人気の資料を毎年決まった時期（夏休み期間など）に展示・活用することで、多くの集客を目指すことができる。

また、小谷城で書かれた長政の書状展示では、書いたとされる小谷城跡内の場所を示すことで、ミュージアムと小谷城跡を繋ぐことができる。

（３）限られたスペースで最大限の魅力発信

ミュージアムの壁面にパネルや資料を展示できる箇所を設け、足元に小谷城や虎御前山城の全容がわかる造作物を設置し、限られたスペースで小谷城の魅力を発信する。また、備品等の収蔵スペースには、展示資料を一時保管できるスペースを設け、展示替え等に対応する。

（４）ＳＮＳ等での拡散を意識したディスプレイ

ミュージアムへの来館が記憶や印象に残るものとするためのフォトスポットや、スマートフォン等での撮影を前提とした展示物やディスプレイ手法を豊富に用い、入館者自身が情報発信者となってもらえる仕組みを作る。

また、館内の壁面や床面、部屋の仕切り等を活用して小谷城を部分再現するなど、当時の小谷城のイメージをミュージアムで体験することで、実際の小谷城跡での体験をよりリアルなものにする。

４－２．展示空間の参考施設事例

前項、展示の基本方針及び以下の参考施設を基に展示空間の検討を行う。

展示イメージ①　シアター展示

導入シアターを設置し、小谷城での歴史的ストーリーを来館者がわかりやすく体感できる仕掛けを導入する。

展示イメージ②　実物資料のケース展示

小谷城跡から発掘された貴重な資料等を適切な保存・公開環境で展示する。

展示イメージ③　壁面や床面活用

限られた展示スペースを有効に活用し、小谷城の魅力を最大限発信する。

展示イメージ④　再現・ジオラマ模型

戦国時代の史跡の縮小版ジオラマを設置し、小谷城を中心とした周遊を促す。

５－１．管理運営の基本方針

（１）持続的な事業活動のための運営体制づくり

貴重な資料の適切な保存管理や展示、地域と連携した活動展開など、事業活動を継続できる運営体制を検討する。

（２）地域利用と観光利用を両立する

地域利用者と観光者、双方を意識した運営を行う。開かれたミュージアムとして、市民・利用者の立場に立った運営を行う。

（３） 多様なネットワークとの連携

小谷城址保勝会などの関係団体との協働、市内歴史文化施設や県内外の博物館施設、城郭関連団体等の関係機関、一乗谷朝倉氏遺跡や比叡山周辺など浅井氏とゆかりがある地域等との連携を前提とした事業運営を行う。

（４）教育機関との連携

教育委員会や市内小中学校との連携を図り、「小学社会」や「中学社会 歴史的分野」でミュージアムを見学するプログラムの構築を検討する。

５－２．運営形態

（１）運営体制

ミュージアム機能のうち、調査・研究、展示、収蔵については、長浜市の直営により運営を行う。教育普及や情報発信、受付、清掃、ミュージアムショップ等の運営は、関係団体との協働・連携、外部委託等についても検討する。

（２）開館日、開館時間

利用者ニーズ等を考慮し、開館時間、休館日を設定する。ただし、年末年始のほか、展示替え、保守点検、清掃等のため、週１回の休館日を設定する。

（３）入館料

市内歴史文化施設の料金を基本とするが、施設の維持および設備の更新等を考慮する。

５－３．来館者数の見込み

現行施設の実績を踏まえ、年間 30,000 人程度を見込む。

６．事業推進計画

６－１．整備スケジュール（予定）

令和５年度　　地元関係団体協議
　　整備予定地試掘調査
　　基本計画策定
令和６年度　　基本設計、実施設計着手（展示・建築）
令和７～８年度　建設工事
令和９年度　　小谷城戦国歴史資料館解体
　　（仮称）小谷城戦国体験ミュージアム開館

６－２．史跡整備との連携

ミュージアムの整備と連携し、日本屈指の中世山城の魅力や特徴を伝えるため、史跡を良好に保存するとともに、快適で安全な史跡探訪ができるよう必要な環境整備を行う。想定する史跡整備は以下の内容とする。

①遺構の復元
②き損部分の修復
③工作物の設置（案内板・説明版・ゾーニングのための境界表示）
④便益施設の設置・修繕（トイレ・階段・木道等）